

## 先生へ

岐阜市立草潤中学校 3年  
清水 大幹（しみず たいき）

学校はどうしてあるのでしょうか。生徒達が楽しく安心して学べる場所ではないのでしょうか。しかし、不登校の生徒は7年連続で増え続けているのをご存知ですか。また、不登校の生徒が理由として挙げているのが、友人関係となっている表をたくさん見つけます。これは、その人自身の人生を左右させるかもしれないとても重要な問題という事をみなさんは知っていますか。

理由は、人を怖がったり嫌がったりしてしまったら、仕事で働くのは難しいと思ってしまうからです。また、怖がってひきこもってしまったら、生きていけなくなってしまうかもしれません。それでは、どうして不登校は人間関係がうまくいかなかったのか。その根本的な理由として、僕は「先生」を挙げたいと思います。

なぜなら、僕には深く心に傷を残したある出来事があったからです。僕が、小学5年生で学級委員をやっていた時、野外学習で起こった出来事です。僕達学級委員は1ヶ月前からテントを立てるという作業の手順を休み時間全てを使って先生からみっちり叩きこまれました。「学級委員だから何でもできるよね。」理不尽と思いました。先生からの圧とプレッシャーで押し潰されそうな中、テント設営が始まりました。そして、僕達のクラスは、全員時間通り終わらせることができました。しかし、ここから忘れたくても忘れられない苦しかった時間が始まります。他のクラスの学級委員は、自分のクラスが終わらなかったため、先生に呼び出されました。他のクラスは真面目にやっていたので、仕方がないと僕が思っていた時。なんと僕も呼び出されました。そして自分のクラスはしっかりと終わったはずなのに僕も怒られたのです。普段、「人の心を傷つけてはいけません。」と言っている先生が、僕の心を深く傷つけていき、この矛盾した出来事に納得することが出来ませんでした。

また、先生は、対話をしない。絶対に謝らない。生徒のことを思っていない。この三つの点から信頼関係を築けるわけはありません。一緒に話したり、時にはふざけてみたりといった「一緒に何かをする」ということがないため、生徒は常に上から目線で言われてるように感じてしまうのです。また、ぶつかったり遅刻したりしたら謝るというのは先生ではなく人としてやるべきことです。教える側の先生が自分の言ったことをやっていないのに、教えられる側の生徒は、先生の言うこと聞くはずありませんし、信頼することもできません。

同時に、僕は先生が子どもにとって、とても大きな存在かということを知ってほしいと思います。子どもの行動できる範囲は、校区が決まっているため、学校の近くになります。そのため、子どもにとって先生は数少ない大人なのです。また、学校はとても大切にしなければならない場所なのです。しかし、とても大きな存在の先生が信頼できないため、相談することは不可能です。そして友達に相談しようと思いますが、友達も学校に通っています。なので、家族の方が相談しやすいですね。これだけでも心は家に向いていますし、先生と話すという事はなくなります。また、先生のせいで友達まで信用できなくなってしまうかもしれないし、人生そのものを変えてしまうかもしれないということは予想することができます。

これまで話してきた通り、先生は子どもたちにとってとても大きな存在なのです。今僕は草潤中で優しい先生と信頼できる先生に囲まれてとても安心できる場所ですが、他は生徒一人一人としてすら見ていません。僕はこれから、自分が経験したことを踏まえて、自分にしか言えないようなこともあると思うので、不登校について声をあげていきたいです。また、それで少しでも僕と同じ苦しみを味わう人が減ればいいと思います。きっと思っているが声に出して言えないという生徒がたくさんいるはずですよ。

だから先生、お願いします。生徒一人一人に耳を傾け、生徒が安心して笑っていける学校をお願いします。これから不登校になる生徒が減少し、安心して学校に行けるようになることを心から願っています。